

## 第55回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

家族を思う気持ち

鹿児島県 鹿児島市立伊敷台中学校 二学年

米山 千愛

私には生命保険に救われた友達がいます。その人は、私が幼稚園の頃からの友達で、お父さんをバイクの事故で亡くしてしまいました。しかし、生命保険に入っていたおかげで、保険金を受け取ることができ、お葬式代も困ることはなかったそうです。それだけではなく、その保険金をもとにして、家を買って残された家族で住んでいます。友達のお母さんが、

「お父さんが家を残してくれたから本当に助かったのよ。この家で、お父さんの思い出と暮らしていけて幸せなんだよ。」  
と言っていたのがとても印象的でした。

このことがあるまで、私は保険というものをよく知りませんでした。保険って何なんだろうか。保険にはどういう種類があるのだろうか。保険って必要なものなんだろうか。私の家はどうか。ちゃんと保険に入っているのだろうか。と次々に疑問が湧いてきました。いい機会だからと思い、自分なりに保険について調べてみようと思いました。

保険には大きく分けて生命保険、損害保険があります。生命保険とは、もし、お父さんが亡くなってしまった時に残された家族が生活に困らないように、必要なお金を残したり、病気で入院した時やガンと診断された時などに支払われるものです。とても良いもので、必要だとは思いますが、もしもの時のために目に見えないものに保険料を払い続けていかななくてはならない点が少しひっかかりました。また、人は年齢を重ねていくにつれ、生活スタイルも変わっていきます。その変化に伴い、加入している保険内容の見直しが必要だそうです。もし、見直しをしていなかった場合、必要以上に契約し、無駄な保険料を納めるケースがあるということも知りました。

調べていくうちに私は『保険って、とても面倒くさそうだな。』とも感じました。しかし友達のことを思い出すと、自分が亡くなったあとに、残された家族にしてあげられることは保険しかないのではないかと思いました。

次に、私の家はきちんと保険に入っているのか母に聞いてみまし

## 第55回中学生作文コンクール

た。実は、少し前に保険の見直しを考えたことがあったそうです。月々の保険料を抑えることが目的で、父の保険契約を少し小さなものに変更しようとした時、父が、

「自分の生命保険は自分が受け取るために契約しているのではなく、もし、自分にもしものことがあった時、残された家族が生活に困ることがないように入っているものだから。お金に困って千愛の将来に影響を与えることがないようにしたい。それに、普段目に見えない愛情を見えるようにしたものが保険なんだよ。だから自分の家族への愛情を小さくすることはできないよ。」

と言ったそうです。

わかりにくい保険、目に見えない保険にお金を払うことって、とても不安な気持ちになるように思っていました。平穏な日常生活では気付くことのできない様々なリスクから、自分や家族を守ってくれるもの。そして私たち家族の未来を守ってくれる本当に大切なものであると気付くことができました。「備えあれば憂いなし」、もしもの時に備えて、普段から準備しておけば、何か起きても心配いらないということです。

今回、保険について調べたことで、保険はなくてはならない大切なものであること、また、両親の私への思いを知ることができ、本当にうれしかったです。そして保険に加入していることが、安心につながっていることにも気付くことができました。私は、保険というお守りに守られながら、保険にお世話になることがないよう健康で楽しい日常生活を送っていきたいと思います。